

森国久銅像建立基金 ご協力のお願い

《詩人の魂》をそなえた天草生まれの異色の政治家・森国久（1912～1961年）を顕彰するため平成29年に創設された森国久顕彰会は、このたび「森国久銅像建立委員会」を設立しました。本委員会は顕彰会の一部門として、森国久の遺徳と功績を末永く顕彰するために、銅像建立基金（浄財）を広く皆様から募り、平成31年（2019年）秋を目指して、生誕の地である天草に銅像を建立する事業を推進します。

森国久は明治45年（1912年）、天草のひのしま樋島に生まれました。大正14年（1925年）に地元の小学校を、昭和5年（1930年）に旧制中学校（5年制）を卒業すると、当時、日本の統治下にあった朝鮮に単身で渡り、新聞記者になります。その後、兵役、警察官、団体役員を経て、昭和26年（1951年）樋島村長に選ばれ、初代龍ヶ岳村長、初代龍ヶ岳町長を歴任しました。それ以降、生涯を閉じる直前までの最後の10年間、森国久は清せい廉潔白、自治自立、無私れんけつぱくの精神で住民につくす公僕として働き続けます。

広い視野と深い洞察力、先見性をそなえた森国久は、地方政治の変革者（イノベーター）としての道を歩みはじめて以来、全国の地方自治の模範となった町独自の福祉条例の制定や、観光と農業を結びつけた開発計画をはじめ、当時としては先進的な施策を次々と打ち出しました。

持ちまへの構想力と実行力をもとに、一町一村の地域振興にとどまらず、天草諸島全体のために、たとえば国立公園への天草編入実現、天草諸島の環状道路の実現、ならびに天草架橋の着工までの確固たる道筋をつけたことは、森国久の最大の功績と言えるでしょう。そのうえ、全国の離島振興をめざす団体の役員や政府審議会委員に選任され、大たい局観きよくかんにたつ活動を通じて離島振興・地域振興に多大な貢献をしました。

ところが不運にも昭和36年（1961年）6月、森国久は架橋着工の大詰め交渉のために上京する途上、48歳で急死しました。着工が決定されたのは翌月の7月のことです。まもなく大規模な架橋工事が始まり、4年あまりの歳月をかけ、ついに昭和41年（1966年）、悲願の天草五橋は完成しました。

このように森国久は、広い意味での住民の福祉・幸福の増進こそが政治の真髓しんずいと考えました。そして寸暇を惜みず、時代の先を読む不屈の開拓者精神でその達成に努めま

した。混迷の時代の今、そのような森国久の記憶を呼び覚まし、あるいは新たな記憶として脳裏のうりに刻印こくいんすることが一層大切であると考え、その抛り所よどころとなる「森国久像」の建立を決意するにいたりました。完成の暁あかつきには、この銅像は必ずや人と人との架け橋、未来への希望の架け橋となり、また観光のシンボルとして、地方創生、地域活性化に貢献する、と私たちは信じて疑いません。

どうか森国久銅像建立委員会の設立の趣旨にご賛同いただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。